

今年「高山流鏑馬」の射手は大園悠馬君

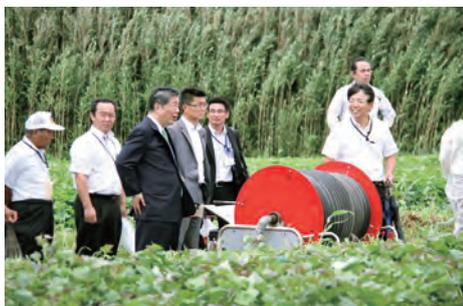
父は昭和63年の射手。親子2代で大役を務める。



写真左より保存会の川野会長、悠馬くん、父の健一さん

7月30日、高山流鏑馬保存会のメンバーが射手宅を訪問しました。今年の射手は高山中学校2年生の大園悠馬君。父の健一さんは、昭和63年の射手として大役を務めました。今回悠馬君が射手の募集に手を挙げたのも、お父さんの経験を聞き、家族の後押しがあったからだそうです。悠馬君は、「嬉しい反面、ケガをしないように気を引き締めて頑張ります。」と話しました。そして、父の健一さんは、「楽しみ半分、心配半分です。最後までやり遂げてほしい。」と大役を務める息子にエールを送りました。

波 荒瀬ダム通水式で農業関係者らが完成を祝う 見の荒瀬ダムにて記念のセレモニー



7月21日、荒瀬川上流に今年3月完成した荒瀬ダムで通水が始まったことを記念して、式典が行われました。

荒瀬ダムは、国が整備した畑地かんがい用のダムで、平成9年に着工し、今年3月に完成しました。肝付町と鹿屋市、合わせて1500ヘクタール余りの畑に農業用水を供給します。通水式には永野町長や森山裕衆議院議員、農業関係者らが出席し通水開始を祝いました。

永野町長は、「荒瀬ダムの水を利用して、若い人たちが計画的に様々な農業を展開していくことを期待しています」と話しました。

式典のあとに、出席者らは、県・町の担当者から説明を受けながら、畑に水がまかれる様子を見学するなどしました。

荒瀬ダムの畑かんにおける効果等につきましては、来月号で掲載いたします。



不思議で愉快的な音楽ダンス演劇「注文の多い料理店」が肝付町で公演

8月4日、宮沢賢治の童話「注文の多い料理店」原作の音楽ダンス演劇が町文化センターで行われました。原作を少しアレンジした、3人のハンターによる不思議な体験を演劇で表現したもので、これまでにない新しい展開に観客はドキドキ、わくわくしながら劇に見入っていました。

今回肝付町で、公演が実現したのは、ハンターを演じた荒木亜矢子さんが昨年岸良の伝統行事「ナゴシドン」の舞い手として参加したことがきっかけになります。劇の後には、演出・脚本・振付・構成を担当した小池博史さんによるアフタートークも行われ、この作品への思いを熱く語って頂きました。

